

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 京都国立博物館【京都・東山】(https://www.kyohaku.go.jp/jp/exhibitions/special/chanoyu_2022/)

10月8日(土)～12月4日(日)

特別展：京(みやこ)に生きる文化 茶の湯

京都は国内外から多くの人々が訪れる、国際観光都市です。人々を惹きつけるのは、社寺建築や美術工芸、あるいは能や狂言、舞踊など、長い歴史の中で育まれてきた有形・無形の文化的遺産でしょう。そして千年のみやこである京都では、多様な人々を迎え入れてきた、もてなしの心を大切にす茶の湯が発展し、今なお息づいています。茶の湯の原形は、平安時代末頃に中国からもたらされました。鎌倉、南北朝、室町と時代が進むなかで徐々に和様化し、いまや日本文化を象徴するものとして世界で認知されています。現在でも、茶道の家元や茶家の多くが京都を本拠とするように、京都は茶の湯の歴史のなかで、中心的な役割を果たしてきました。本展では、各時代の名品を通して、京都を中心とした茶の湯文化を紹介します。連続と守り継がれてきた茶の湯の歴史と、茶人たちの美意識の粋を感じていただければ幸いです。



2. 出光美術館【東京・千代田】(<http://idemitsu-museum.or.jp/exhibition/schedule/>)

10月29日(土)～12月18日(日)

企画展：惹かれあう美と創造—陶磁の東西交流

珍しい造形や異国情緒溢れるデザイン。陶磁器はバラエティーに富み、人々の生活を豊かにしてきました。それらは地域の文化や風土に根ざすだけでなく、アジア、ヨーロッパと人々が交流を重ね、互いに美しい装飾や技術に惹かれあい、魅力的な文化も創造してきました。日本や中国の陶磁、イスラーム陶器、マイセンやセーブル、さらには富本憲吉(1886～1963)や板谷波山(1872～1963)と、古代から近現代にいたるまで、東西の交流を通して生み出された陶磁器の美の世界へ誘います。



3. 石川県九谷焼美術館【石川・加賀】(<http://www.kutani-mus.jp/documents/R4sche.jpg>)

前期:10月29日(土)～12月18日(日) 後期:12月24日(土)～令和5年2月12日(日)

特別展：開館20周年記念 古九谷の多様性とハレ



古九谷の小皿・中皿には、人を惹きつけてやまない多様性に富んだ美しさがあります。本展では、古九谷の皿の用途としてハレ(非日常)を指摘し、古九谷の権威を再構築されるとともに、小品や組物にこそある魅力に迫ります。